

序 論

1 時代背景

1990年代、経済のグローバル化¹への突入により、世界は一つの市場となって機能し始めました。さらに近年では経済にとどまらず、教育、環境等の様々な分野においてもグローバル化が進み、日本もこの大きなうねりの中で激しい変革が求められています。

この大競争時代²を勝ち抜いていくためには、21世紀という時代を的確に捉え、戦略的に挑戦していく叡智^{えいち}と、自らの価値観をもって状況を判断し、行動していく力強さが求められています。

また、アジア・アフリカの途上国における「人口爆発」と言われる急激な人口増加は、世界的規模で食糧需給の逼迫^{ひっぱく}を招くことが予想され、地域内での食糧需給率の向上など、長期的な施策の展開が必要となっています。

一方、日本国内においては、超高齢化・少子化社会の進行によって、これまでに経験したことのない大幅な人口減少社会を本格的に迎えようとしています。

将来的に、生産年齢人口の減少は社会の活力を著しく低下させ、行政においては社会保障費の増大や税収の減少などにより、投資的な施策を行うことは極めて困難になると予想されています。

このような状況の中、市町村合併による新市建設を都市基盤強化の最後のチャンスとして捉え、現状の諸課題に的確に対処しつつ広い視点に立ち、力強いまちづくりを積極的に進めていかなければなりません。

1 グローバル化・・・世界的規模に広がること。政治・経済・文化など国境を越えて地球規模で拡大すること。

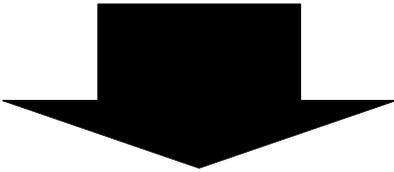
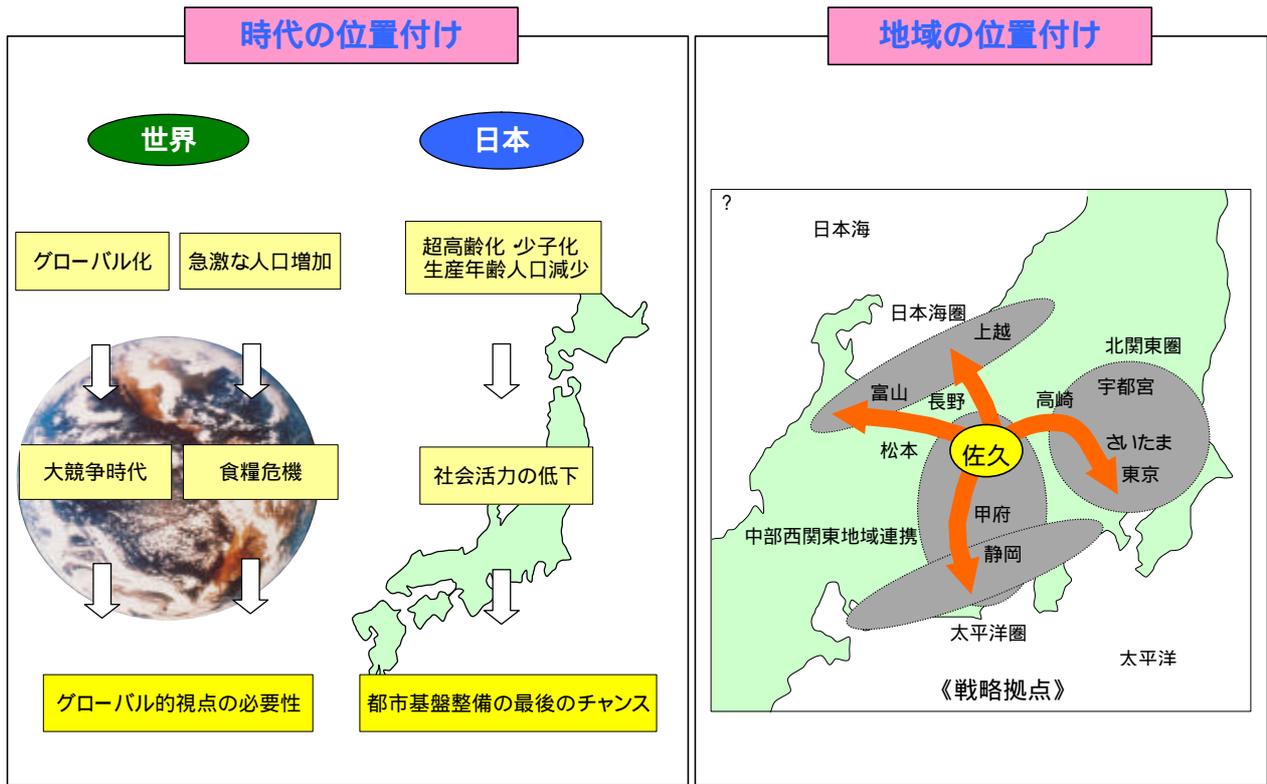
2 大競争時代・・・世界中の企業が国境や業界を越えて地球規模で競争を行う状態。

2 地域背景

全国的な高速交通網の整備や情報網の発達、人や物そして情報の交流を進展させ地域の活性化に大きく寄与していますが、その一方では地域間競争をより激化させています。

このような中、新市では北陸新幹線や上信越自動車道が整備され、さらに中部横断自動車道、松本佐久間の交流促進型広域道路整備により、日本海圏・北関東圏・太平洋圏を結ぶ交通の要衝^{ようしゅう}として地域連携軸の結節都市となります。

この結節点としての優位性や日本の人口が長期減少傾向の中で、新市が人口増加傾向にあるという優位性を活かすことによって、広域的な交流・戦略拠点としての体制を確立し、これらを基に地域資源を活かし独自性のある産業などを振興することによって、魅力あるまちづくりを進め、地域間競争に対応していかなければなりません。



21世紀への挑戦

大競争時代を生き抜く力強さ

- ・戦略的に21世紀へ挑戦していく
- ・自ら判断して推し進める

可能性の高い地域

- ・新市の人口は、日本の人口が減少する中で増加傾向にある

守りでなく攻めの姿勢で21世紀に船出

3 計画策定の方針

(1) 計画の趣旨

この計画は、佐久市・臼田町・浅科村・望月町の4市町村の合併により誕生する新市を建設していくための基本方針を定めるとともに、これに基づく各種の施策を明らかにし、その実現を図ることにより4市町村の速やかな一体性を確保し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図ろうとするものです。

(2) 計画の構成

この計画は、序論、4市町村の概況、主要指標の見通し、新市建設の基本方針、新市の施策、新市における県事業、公共施設の統合整備及び財政計画で構成します。

(3) 計画の期間

新市建設の基本理念や新市の将来像は、概ね20年後を展望した長期的な視野に立ったものとし、新市の施策、新市における県事業、公共施設の統合整備及び財政計画は、合併日の属する年度及びこれに続く10ヶ年の計画とします。

なお、この計画は社会情勢や財政状況の変化に応じ、必要が生じた場合は見直しを行うものとします。